

# 脇田巧彦の目

松井秀喜選手をアスレチックスにスカウトしたピリン・ビーンの物語

松井秀喜(37)と、ブラッド・ピット(47)が初対面。松井外野手が所属するアスレチックスの地元オークランドで、2人のツーショットがテレビや新聞で紹介され耳目を引いた。

「これ、なんだ?」と思いきや、去来で28日、日本では11月11日から公開される映画「マネーボール」の宣伝キャンペーンの一コマだった。



この映画は、メジャーリーグの貧乏球団だったオークランド・アスレチックスを奇跡の常勝チームに変えたピリン・ビーン・ゼネラルマネジャーの半生を描いた作品。

今季、松井選手に熱烈なラブコールを送り、アスレチックス入団時には2人のツーショットが日本のメディアをにぎわせたのは記憶に新しい。

このピリン・ビーン役を天下のブラピが演じたわけで、当方も試写を見たが、久しぶりの上質な映画。単なる野球映画でもなければ、野球ファンのため

の映画でもない。今年一番のエキサイティングな映画と海外メディアでも騒いでいる。

ピリンは、高卒のプロ野球選手からフロントに転身するというキャリアの持ち主。短気な性格で、アスレチックスの試合を見ないばかりか、辺り構わず当たり散らす。選手時代に結婚した妻も仕事オンリーのピリンに愛想を尽かして離れていった。

そんなピリンが、野球を全く知らないイギリス大経済学部卒のピーターと出会う。コンピューターおたくでデータ至上主義の運営論を持つピーターの「マネーボール論」を信用し、以来タッグを組みアスレチックスを根本から体質改善していく。

打点や本塁打の数より、データを活用しての出力率や長打率の高さを重視。年俸の安いコストパフォーマンスの優れた選手を集めてチーム編成。選手のトレードの実態はすごい。2000年から03年にかけて連続で同チームをプレーオフ進出に導いた手腕ぶりが描かれている。

ラストは記録的な高額契約金でレッドソックスから誘いがかかるのを辞して、アスレチックスに残留。後味のよい映画である。